



# 水沢 PTA

第93号

水沢商業高校PTA会報  
令和元年10月23日発行

特集

PTA会員交流会  
インターハイ出場  
全国大会出場

山寺、文翔館（山形県郷土館）

陸上競技部 佐藤 祐介

ワープロ部・珠算電卓部・簿記選抜・情報処理選抜



陸上競技部 佐藤 祐介



## 祝90周年

PTA会長 井 上 建 志

令和元年度水沢商業高等学校PTA会長を務めさせていただきます井上建志と申します。日頃よりPTA活動に際しましてご理解とご協力をいただきしておりますことに、心より感謝申し上げます。

本校は創立90周年を迎えました。「ビジネスのスペシャリストの育成」を掲げ、地域に根ざしたキャリア教育、商業実践活動に取り組み、今日まで優秀な人材を多数輩出してまいりました。これは、卒業生の皆さん一人一人の努力はもちろんのこと、歴代の校長先生をはじめ教職員の皆様の熱心なご指導、地域の皆様、同窓会、明浄会、PTA会員の皆様のご協力とご支援とが結実したものであり、関係者の皆様の長年にわたるご尽力に深く敬意を表します。そして、自分の夢に向かって日々ひたむきに努力を重ね、心も身体もたくましく成長していく現在在学されている生徒の皆様の姿に、私自身も勇気付けられています。100周年へ向けてこれまでのPTA活動の財産を受け継ぎ、しっかりと襷を繋いでいきたいと考えております。

今年は、90周年記念事業として、9月に仙台フィルハーモニー管弦楽団をお呼びして「創立90周年記念コンサート 繫」、11月には、創立90周年記念式典。山本シュウさんの基調講演。そして、記念祝賀会が行われます。90周年の節目に出会えた「ご縁」に感謝しつつ、記念事業をひとつひとつ堪能して参りたいと考えております。PTA会員の皆様、たくさんのご参加をお待ち申し上げます。

さて、「水商祭」が近くなってきました。今年は90周年事業の絡みで、1日開催となります。PTAとしまして今年も盛り上げていきたいと思っております。今年は何をしようかまだ検討段階ですが、会員の皆様からのご意見を頂戴しながら進めてまいりたいと考えております。こちらも、たくさんのご参加をお待ち申し上げます。

最後になりますが、今年度も半分過ぎようとしています。高校時代は、大きく知識が増え、感性も磨かれ、難しい年頃です。PTA役員をはじめ会員の皆様方のご理解とご協力を頂きながら、子どもたちのためのより良い教育環境作りに努めて参りたいと思います。今後とも会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。

### 令和元年度 PTA役員名簿

役 職	役員氏名	生徒名	クラス
会 長	井 上 建 志	祐 志	3 A
副 会 長	千 葉 千 春	美 岬	3 B
副 会 長	小 野 寺 道	純 伶	2 B
副 会 長	家 ノ 子 学	菜 太	2 C
副 会 長	菅 原 正	勇 太	2 C
副 会 長	佐 々 木 友 也	大 佑	1 C
副 会 長	千 葉 尚	職 員	
監 事	渡 邊 寿 美 枝	彩 月	3 A
監 事	小 林 優 美	勇 翔	2 B
健全育成委員会委員長	井 上 建 志	祐 志	3 A
健全育成委員会副委員長	千 葉 千 春	美 岬	3 B
健全育成委員会副委員長	村 上 丈 晴	奈 千	2 A
健全育成委員会委員	遠 藤 美 幸	一 毅	2 A
健全育成委員会委員	家 ノ 子 学	菜 太	2 C
健全育成委員会委員	遠 藤 千 加	亮 祐	1 A
健全育成委員会委員	佐 々 木 友 也	大 佑	1 C
健全育成委員会委員	小 山 智 之	職 員	
健全育成委員会委員	川 原 佳 訓	職 員	
進路対策委員会委員長	小 野 寺 満 枝	枝 乃	3 A
進路対策委員会副委員長	高 橋 有 美 子	秀 明	3 C
進路対策委員会副委員長	藤 井 善 勝	史 香	2 B
進路対策委員会委員	菅 原 正	勇 太	2 C
進路対策委員会委員	阿 部 英 淑	圭 能	1 B

役 職	役員氏名	生徒名	クラス
進路対策委員会委員	羽 藤 久 子	雅 泰	1 C
進路対策委員会委員	小 岩 亮	職 員	
調査広報委員会委員長	千 葉 智 昭	智 美	3 B
調査広報委員会副委員長	小 野 寺 裕 子	修 周	3 C
調査広報委員会副委員長	菊 池 曜	2 C	
調査広報委員会委員	小 野 寺 道	純 伶	2 B
調査広報委員会委員	瀬 川 美 奈 子	美 波	1 B
調査広報委員会委員	千 葉 智 浩	美 櫻	1 C
調査広報委員会委員	佐 々 木 智 子	職 員	
調査広報委員会委員	松 浦 昭 彦	職 員	
母 亲 委 員 会 委 員 長	門 脇 純 子	雪 乃	3 C
母 亲 委 員 会 副 委 員 長	高 橋 奈 苗	杏 奈	2 A
母 亲 委 員 会 副 委 員 長	及 川 み ど り	一 樹	2 B
母 亲 委 員 会 委 員	千 田 綾 子	愛 莉	1 A
母 亲 委 員 会 委 員	阿 部 宏 美	藍 海	1 A
母 亲 委 員 会 委 員	大 石 美 香	職 員	
事 務 局	中 村 克 巳	副 校 長	
事 務 局	三 浦 弘 美	職 員	
事 務 局	千 葉 多 美 子	職 員	
事 務 局	菊 地 博 美	職 員	
事 務 局	野 澤 紀 美 子	職 員	
事 務 局	大 石 美 香	職 員	



# 90年の時を経て、今を生きる若者たち

校長 千葉 尚

薄曇りに秋風が、色づき始めた木々の葉をゆらす、穏やかな一日。この普通のありがたさをかみしめたります。「これまで経験したことのない～」といわれるような自然災害の数々が今年も日本全国で発生しています。また、技術の凄まじい進展やインバウンドの加速的な増加など社会の変化の影響を感じています。私たちは、様々な渦の真っ只中にいるようです。

校長室前の庭に石のモニュメントがあります。昭和41年に、現在の校舎落成を記念して同窓会から贈られたものです。テーマは『渦』です。水商の「水」の象徴であり、渦巻く社会の激流の眼を表し、また、「混沌たる社会の渦の中で、強く逞しく生き抜いて欲しい」という後輩への願いも込められています。今年は、本校創立90周年を記念する年でもあり、学校史を振り返ると、諸先輩の活動や思いは現代にも通じると実感させられます。

生徒は、先輩から受け継いだ財産をもとにしながら、自分たちの考えを加えて活動し、成長しています。特に、「考え方」を「表現（アウトプット）する機会を増やしています。授業では、「発言する・記述する・まとめる」力を育成し、様々な体験を振り返り記録されることにより自らの変化に気づかせていきたいのです。さらに、今年度からは、3年生は、「課題研究」を3年間の集大成と位置づけ調査研究に時間をかけて取り組んでいる最中です。2年生は、『ござえんちゃハウス』に全学科が出店して営業します。これらを通じて社会人基礎力（考え方・チームで働く力・前に踏み出す力）を育てます。次の時代を担うには、AIができない役割を果たせる力を身につける必要があります。そのために実社会での学びと専門の学びを結びながら、ビジネスを学ぶ有利さを生かしていきたいと考えています。

ところで、私事になりますが、家庭菜園デビューをしました。しかし、「なんとかなるさ」という思いをたしなめるように、収穫はわずかでした。環境づくり（土作り、水やり、除草など）が疎かで、成長にとって最適なタイミングも逃し、天候の影響もあったと思います。この体験を来年に生かすためには、記録しておくことが大切だと反省しています。

保護者の皆様が我が子の成長の記録を画像や動画として残しておくと同じように、学校生活では、学習や実験活動をその時々の思いとともに記録しておくことが求められています。成功も失敗も、それらの記録が『ポートフォリオ』として、生徒の自己肯定感を高めながら前に進む力にできます。また、進路実現に活用できる強みにもなります。

水商生が、90年のビジネス教育の伝統を受け継ぎつつ、これから訪れる時代をリードする社会人となれるよう、商業高校ならではの教育活動を推進してまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 令和元年度 本校職員

校長 千葉 尚 副校長 中村克巳 事務長 金野武彦

(○は学年長)

組	正 担 任		副 担 任		学 年 付	
1A	松田一成	数学	葛西栞奈	商業	菊地博美	保健体育
1B	加賀谷圭太	商業	○野澤紀美子	外国語	滝田くみ子	養護
1C	坂本桃子	国語	阿部正史	商業	秋田祥子	商業
2A	千葉絵理	家庭	小山智之	商業	三浦弘美	商業
2B	柳原聰明	商業	○千葉多美子	商業	佐々木智子	保健体育
2C	吉田剛	商業	菅野行健	地歴公民	佐藤桂子	外国語
3A	川原佳訓	商業	宮本明子	数学	○高橋美紀子	保健体育
3B	関根道博	国語	松浦昭彦	商業	小岩亮	地歴公民
3C	村上儀明	外国語	小野育子	商業	小野岳登	理科
					大石美香	商業

事務	金野由紀子	及川朝美	千葉茂幸	小野寺智子
----	-------	------	------	-------

# 特集

## 陸上競技部（インターハイ沖縄大会）

### 夢の舞台

3年C組 佐 藤 祐 介

私は沖縄で開催された陸上のインターハイに出場してきました。

小さい頃から走ることが好きでしたが、本格的に陸上競技を始めたのは高校入学後のことでした。1年生の時は、部活動があまり好きではありませんでしたが、2年生になると自然と陸上競技が好きになっていました。

3年生になって迎えた最後の高総体では、皆の想いがひしひしと伝わってくるものがあり、頭では冷静さを保ちながらも、心の中では興奮している部分もありました。110mハードルの予選では、途中から体の動きとハードルと噛み合ってベストを更新しました。順調に勝ち進み、東北大会出場の切符をかけた決勝では、自信があり、リラックスしている自分を感じました。スタートラインに立ち、スタートのピストルの合図を待っている間は心臓の鼓動を感じるほどでしたが、ピストルが鳴った後は、さっきまでの心臓の鼓動は感じなくなりました。スタートではやや出遅れましたが、得意の後半で立て直し、2位で東北大会出場を決めました。チームメイトが泣きながら駆け寄ってくる姿を目にした時は嬉しい気持ちとホッとした気持ちが入り交じり、また、自分のことのように喜んでくれる人が周りにいる自分が恵まれていることを実感しました。

更に練習を積み重ねて挑んだ東北大会の予選は不安定でしたが、どうにか通過し、準決勝では予選の修正を行いましたが、本調子にはなっていませんでした。そんな中でのぞんだ決勝のスタートはまずまずでした。そこから神風にでも押されたのか、自分の体ではないかのようにスムーズに進み、3位でゴールしていました。インターハイに出場など想像もしていなかったので、嬉しさよりも驚きの方が大きいものがありました。

インターハイでは、自分がどこまでいけるのかという楽しみと、今まで感じたことのないプレッシャーがありました。前日や当日の練習では調子が良く、万全の状態で競技にのぞみました。私の走る前の組から雨や風が強くなり、コンディションが悪くなっていました。スタートの合図が鳴り、ずっと取り組んでいたスタートは上手くいきましたが、体の動きが悪くバラバラで、自分の走りができませんでした。台を重ねるごとに離されていき、そのままのゴールで予選敗退でした。悪条件の中でも走りきる、全国のレベルを思い知らされ、悔しさと情けなさで一杯でした。自分には大舞台での強さがありませんでした。今は、これらの経験を経て、成長できた自分を感じています。

両親、チームメイト、先生方にとても感謝しています。今後は、皆から頼りにされ、周りの人を支えてあげることできる人間になりたいと考えています。

### 「南部九州インターハイ トップ」

陸上競技部顧問 高 橋 美紀子

6月17日、東北高校陸上競技大会最終日。男子110mハードル（通称トップ）決勝において、みごとなハーデリングをみせてゴールを駆け抜け、第3位。沖縄で開催される全国高校総体への出場が決まった瞬間だった。

入学当初の男子部員は三年生1人と一緒に入部した一年生の2人。雑草だらけの草地と格技場横の一般道での練習で、けがが心配な環境。スパイクを履いてハードル練習ができるのはせいぜい1週間に一度。そのような環境なので、よもやインターハイに参加できるなどとは考えもしていなかった。しかし、本人は二年生の秋から本気で考え、意識して練習していたようである。そもそも男子のハードルの高さは106.7cmもあり、さらにハードル間は9.14mもあり、恐怖感が伴う。本人も2年生の記録会でハードルにひっかけ、転倒を経験している。それでもハードル競技の面白さに惹かれ、意欲的に練習に取り組んできた。

8月6日、台風発生の情報が入る中、レースの二日前に沖縄に入った。8日のレース当日、ウォーミングアップを終え、本人の調子も悪くなかったので、記録を狙っていこうと話していた。しかし、3組から突然風雨が強まり、4組の本人のレースの時には今まで経験したことのない大雨と向かい風。眼鏡をかけているが前がほとんど見えないコンディションの中を走ることになった。不運だった。結果は本年度の最低記録。次の組は風雨のため、30分ほど競技が中断となった。

たくさんの応援と励ましの言葉をいただき、全国大会に参加できることは、本人にとってとても貴重な経験であった。本人の能力と努力があっての全国大会出場ではあるが、直前まで一緒に練習に付き合ってくれた仲間の存在も大きかったです。

ベスト記録が出る環境で勝負できなかつた無念さが今も残っている。

## 全国高等学校ワープロ競技大会

### 結果

3年A組 小 澤 由 宇

全国大会でも通用する練習量と内容をやってきたという自負はありました。自分たちが結果を残すことができるかどうか、自信を持てずにいました。「これが最後の大會」と意識すればするほど、不安に押しつぶされそうになっていました。

大会前日の練習では、「また、皆の足を引っ張ってしまうのでは」となどと考えていました。その時に、「たとえ全国で優勝しても、100%満足できるわけではないのだから、結果など気にしないで楽しもう」と、ある人から声をかけられ、気持ちが吹き切れました。「最後ぐらいは結果などを気にしないで、競技を楽しもう」と気持ちが変わりました。

最後の競技の10分間は、本当にあつという間に過ぎ去りました。最初で最後の10分限りの「自分への挑戦」は精一杯楽しむことができたと思っています。全国大会団体10位という結果で部活動を退くことになりました。勝負の世界に「たられば」を持ち込んだらきりがありません。その結果を悔いるのではなく納得することが大切だと思います。そして何より「三年間頑張ってきて良かった」と心から思うことができたことが、私にとっての最高の結果でした。レギュラー競争、辛い練習、伝統校の看板を背負う重圧。決して平坦な道ではありませんでした。それでも、全国大会という夢を追いかけ、結果を残すことができました。ワープロ部での3年間は、苦しくて楽しかったです。

### 実を結んだ努力

3年A組 千 葉 ななみ

私たちは8月7日に愛知県名古屋市で行われた全国大会に参加し、団体10位という結果を勝ち取りました。そこへは、厳しい練習と仲間からの手厚いサポートがあったからこそ、結果を出すことができたのだと思います。

大会当日は、私は第三打者として競技に参加しました。それほど緊張することなく、普段の練習どおりに打つことができました。それは、ひとえに長い練習時間と今までの努力に裏打ちされた自信と、先に打ってくれた人たちが優秀なので、心配をすることがなくリラックスして打つことができたからだと思います。



今までの部活動を思い返してみると、辛いと思うことは何度もありました。しかし、先輩を追い抜く楽しさや、打数が伸びた喜びなどがたくさんありました。また、部員同士の交流をとおして、人間的に成長できたと思っています。部活動に行くのが嫌だと思ったこともありますが、この大会を最後に部活動から引退するのかと思うと、物寂しい気持ちがわいてきたのも事実です。

後輩たちには、先輩の背中を追い、そして追い越して行ってほしいと思っています。プレッシャーをかけるようですが、来年の県大会制覇を期待しています。これからも、日々の練習を大切に、頑張ってください。

## 目標を達成

## 3年C組 千葉拓斗

私は8月7日に名古屋市で行われた第65回全国高等学校ワープロ競技大会に参加し、団体で10位入賞という成績を収めることができました。

前日の練習では、特に緊張することなく本番のつもりで打てました。大会当日の朝も、体調を崩すことなく万全の状態で挑むことができました。控室では仮眠を取りながらも、指慣らし程度に打ちました。自分は2打者目だったので1時間も待たないうちに集合がかかりました。問題を渡され10分計測が始まっても、落ち着いて打つことができ、緊張しなかったのは自分でも不思議に思うくらいでした。今までいろいろな大会や遠征に参加したおかげで緊張せずに打つことができたと思います。結果としては、総字数1,777字の4エラーで、自分としてはいつもの練習で出している結果がそのまま反映されたような感じでした。

今回の結果は、ワープロ部に入部した当初から目標にしていた全国大会に出場するという願いを達成することができ、また団体としても10位入賞をすることができました。これらは私一人では達成することできなかった目標だったと思います。これまで支えてくださった先生方や部員のみんな、そして親にはとても感謝しています。3年間、本当にありがとうございました。

## 「10分間にかける青春」

## ワープロ部顧問 秋田祥子

令和元年8月7日（水）、愛知県名古屋市中小企業振興会館ホールを会場に全国高等学校ワープロ競技大会が開催されました。（団体56校、出場選手（団体+個人）215名参加）

今年度は大会会場が名古屋市に移り（昨年度は東京）、団体・個人の選手が同じ会場で競技を行いました。環境が変わることへの不安をなくすため、機械の動作確認、トラブル発生時の対応、競技進行手順など念入りに確認しました。

全国大会1カ月前の東北大会は4位という結果でした。選手やサポートする部員にとって追い込まれた状況ではありましたが、その悔しさが選手を奮い立たせてくれました。

大会当日、選手は普段より言葉数が少なく、緊張が伝わってきました。トラブルもなく1人10分の競技は終了。閉会式までの待ち時間は、3年生が2年生へ今後の部活動についてアドバイスをするなど、新チームへの引継ぎが始まっています。後輩へ想いを託す3年生の姿に感謝しかありません。

結果は団体の部10位入賞（5,096字）、個人では千葉みなみ（1,851字）が佳良賞に入賞しました。多少問題の難しさはあったようですが、最後は指をいつも通り動かすこと、平常心で打つことの戦いだったようです。

大会を終えた選手の話の中で「余り緊張せず、いつも通り打ちました。結果的にエラーが出て悔しいけれど入賞もでき、ワープロという夢中になれるものに会えて良かった」、「順位によってメダルの重さは違う。その重さを決めるのは自分たちの努力、練習量です」という言葉が印象的でした。

昨年は絶対的なエースがいて、個を軸とするチームでしたが、今年は一人ひとりの力を繋いで勝ち抜く、総合力で勝負するチームでした。全国大会出場、全国大会上位入賞、団体正確賞とチームが成長することに目標が変わり、昨日より今日と変化を与えて歩みを止めずに進んできた3年間。打つことが楽しいと感じるには入部して1年間位でしょうか。それ以外は厳しい練習だったと思いますが、全力で向き合った時間はこれからの財産となり、支えになってくれると信じています。全国大会出場にあたり、多くのご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 全国高等学校珠算・電卓競技大会

## 自分の弱さ

## 2年B組 佐々木慧蓮

8月1日、先輩がいない2年生だけのチームで全国大会に挑みました。今回の大会では一つでも多く入賞するという目標を持って臨みました。

大会本番では、昨年よりも緊張は少なかったものの、私がライバル意識を持っている選手が隣の席に座っていたので、少し違った緊張感がありました。総合競技では、普通計算・応用計算とともに時間配分がしっかりできず、見直しがあまりできませんでした。二種目出場した種目別競技の伝票算では、普段の練習で終えることのできる制限時間だったのに、本番では間違えてしまい、決勝トーナメントをすぐに敗退してしまいました。応用計算では、佳良賞に入ることはできましたが、3等にあと一步で入賞することができなかつたことがとても悔しく思うとともに、全国大会で入賞することの難しさを改めて感じました。全体としての成績は、団体・個人ともに昨年より点数が伸びていなく、自分たちの成長を感じることはできませんでした。



今回の大会をとおして、自分自身の実力のなさ、大会に対する意識の低さなどを痛感しました。昨年の大会から1年間、長時間の練習を行ってきたのに、それが今回の大会に反映されなかったということは、まだまだ練習が足りなかったということになります。来年の大会に向けて、部長として部員全員が同じ気持ちで挑めるようにしていくつもりです。来年の最後の大会では悔しい思いをしないように、練習により一層集中して取り組んでいきます。

## 全国大会で得たこと

## 2年B組 小野寺純伶

わたしは、8月1日に仙台サンプラザホールで行われた全国高等学校珠算・電卓競技大会に出場しました。高校に入学してから2度目の全国大会でした。県予選では、選抜のメンバーを含め全員が全国大会へ出場することができ、とても嬉しく思いました。

全国大会に向けて、大会を意識した練習に取り組みました、開いている時間を利用して自主練習などを行い、大会に挑みましたが、全国大会という規模の大きな大会で私は緊張してしまい、目標としていた入賞もできず、また自分の満足のいく点数を取ることができなかつたことを本当に悔しく思いました。また、団体でも点数が伸びず、入賞することはできませんでした。悔しい思いをした結果、自分たちの課題や改善すべき点が見つかりました。また、自分たちの練習スタイルを改めて見直すことも大切だと感じました。

来年は今年よりも良い点数で県予選を突破し、松浦先生、葛西先生、小野寺コーチへの感謝の気持ちを忘れずに練習の取り組み、全国大会では入賞して恩返しをしたいと思っています。

## 全国大会をとおして

2年B組 千田祐太

私は8月1日に宮城県仙台市のサンプラザホールで行われた第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会に参加してきました。

成績としては全く納得のいくものではなく、成績も順位も1年生の時より下がってしまいました。理由としては、普段の練習で用意された問題プリントを黙々と解くだけで、身になっていたからだと考えました。また、どのような練習方が一番効率的かつ内容の濃い練習になるかということを考えることが大切だと思いました。種目別競技では、伝票算競技と応用計算競技の二種目に出場しました。伝票算競技では予選落ち、応用計算競技では決勝の一題目で間違えてしまいました。種目別競技は総合競技より練習量が不足がちなところを、自宅で補わなければと実感しました。

今回の全国大会で入賞できなかった反省点を踏まえ、悔しい思いをしないように今後の県新人戦、東北大会では優勝を目指します。

## 「全国大会入賞を目指して」

珠算電卓部顧問 松浦昭彦

第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会は令和元年8月1日(木)宮城県仙台市サンプラザホールで開催されました。珠算・電卓競技の頂点を目指す各県予選を勝ち抜いた493名(珠算:112校300名、電卓:84校193名)の精鋭が集い、それぞれ競技で力を競いました。

4月当初、珠算電卓部は、29年度8月実施された全国大会での珠算団体佳良賞に見合うような上位入賞を目標とし部活動に取り組み始めました。しかし、例年と比較し、珠算電卓部として部員数が少なく、珠算競技4人、選抜1名のみの大会出場という状況でした。そのため、練習は最初は足並みが揃わず体制づくりに時間がかかり、なかなか計画どおりには進みませんでした。また、厳しい練習を自主的に継続できない状態も見受けられました。

しかし、「可能性への挑戦」とスローガンを掲げ、さらに意識を高め、昨年度11月の東北大会団体での入賞を逃した悔しさをバネとし、それまで以上の実践練習を繰り返し今大会に臨みました。前年度と同様、放課後の部活動に土日の練習という練習メニューに、普通計算や応用計算の安定性を図り、点数アップを図るため、家庭学習2時間を加えました。6月の県大会では、団体個人ともに優勝を飾り全国大会に全員で出場できる喜びにわきました。しかし、2年4名、1年1名の成績が全国でどの程度通じるかは不安が残りました。

大会当日の朝8時、真夏の暑さに包まれるなか大会会場に到着し、軽い事前練習を終え、開会式に臨みました。本校生徒は数多くの大会の経験から、緊張感からの大会の雰囲気にのまれるということもなく、平常心で10時からの競技に臨みました。団体および個人総合競技は、493名の選手が一同に会して熱戦を繰り広げました。その後種目別競技に入りました。種目別競技は4競技に分かれ各種目160名で勝ち残り方式で競技が進められました。応用計算で2年佐々木慧蓮さんが佳良に入賞ましたが、その他は善戦及ばずという状況でした。

種目別競技に時間がかかりながらもすべての競技が終了し、閉会式に入りました。講評のあと成績発表が行われ、珠算の部団体は兵庫県立西宮高校が優勝に輝きました。電卓の部団体は愛知県立愛知商業高校が優勝に輝きました。本校の成績は、団体及び個人の入賞者はいませんでした。本年度は全国の壁は厚く、入賞には至りませんでした。しかし、部員は昨年同様入賞を目指し一心不乱に練習に取組みました。種目別の入賞だけでも大きな努力の成果です。これは選手の日々の努力の成果であることはもちろんですが、保護者や多くの方々からご支援を得たことによりこの伝統が築かれたと思います。感謝の念に堪えません。今後、1・2年生は来年へ向け地道な努力を重ね、新たな伝統を築いてほしいと思います。本校珠算電卓部生徒は常に明るく礼儀正しく、珠算の技術と礼節を備えた生徒で誇りに思います。常に可能性へ挑戦し続ける厳しい練習に耐えた不屈の精神力と礼節を重んじる姿勢から伝統が築かれました。この伝統を受け継ぎ、さらなる向上を目指し頑張ります。

## 全国高等学校簿記コンクール

### 簿記選抜をとおして

3年B組 小野寺茉奈

私は7月21日に兵庫県で行われた全国高等学校簿記コンクールに出場してきました。

今回の大会が、最後の大会だったので、悔いがないように終わるようにとおもっていました。しかし、県大会では盛岡商業高校に5点差の僅差で負け、悔しい思いをしました。その悔しさを力にして、全国大会では今度こそ悔しい思いをしないように、今まで以上に練習に集中して取り組みました。

全国大会までの期間が一ヶ月と短く、練習量もこれまでよりも多く、精神的に辛いこともありましたが、簿記選抜のメンバーと励まし合いながら頑張ることができました。また、練習する際には、より早く問題が解けるように、本来の制限時間よりも時間を短くして解くなど工夫をしながら、少しでも点数を上げられるようにしました。

大会本番では、緊張しないで落ち着いて問題を解き、今まで3年間積み重ねてきた練習の成果を出し切ることができました。入賞はできませんでしたが、今まで頑張ってきた結果なので悔いはありませんでした。また、今まで簿記選抜を続けてきたおかげで身に着いた力が多くあると思っています。

こうして大会に出場することができたのは、指導してくださった松浦先生や柳原先生、応援してくれた友人や家族の支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。1年生・2年生には来年の全国大会に向けて練習を頑張り、私たちが果たせなかつた県大会での優勝と、全国大会での入賞を期待しています。

### 簿記選抜で得たこと

3年B組 須藤渚

私は7月21日に兵庫県の関西学院大学で行われた全国高等学校簿記コンクールに出場してきました。

今回の全国大会は、私にとって2回目の出場であり、最後の大会でした。昨年は、「挑戦」という気持ちで大会に出場しました。今年は昨年と違い最後の大会になるので、悔いの残らないようにするという強い気持ちを持ち、大会に出場しました。県大会では、昨年度優勝の盛岡商業との差を5点まで縮めることができたものの、優勝まであと一步届かずとても悔しい思いをしました。全国大会では、この悔しさをバネに挑み、団体・個人とともに昨年よりも順位を上げることができましたが、目標としていた入賞はできませんでした。

3年生になり、進路に向けての取り組みや勉強、部活動などを両立してやらなければならないことがあります。簿記選抜の練習は昨年より大変でした。練習していく中で何度もくじけそうになりましたが、家族、先生方、友人の支えがあったおかげで、最後まで頑張ることができました。私は簿記選抜での活動をとおして、途中で諦めずに最後までやり遂げる強い精神力を身に付けることができ、続けてきて良かったと思います。

最後になりますが、私が簿記選抜で3年間活動できたのは、今までご指導してくださった松浦先生、柳原先生、家族、友人など多くの人の支えがあり、応援してくれたからだと思っています。本当にありがとうございました。この経験を糧に自分の夢に向かって頑張っていきたいと思います。



## 貴重な経験

2年B組 佐々木 慧 蓮

7月21日、関西学院大学で行われた第35回全国高等学校簿記コンクールに出場してきました。今まで部活動では全国大会に出場してきましたが、参加人数が400人と多く、これまでの大会とはまた違った緊張感がありました。

今回の全国大会に出場するうえで、様々な思いがありました。県大会では他校の2年生にわずかな差で負けてしまい、悔しい思いをしました。全国大会では、この相手よりも高い点数を取ることを目標に頑張りました。また、400人いる選手中で自分自身がどの位置にいるのか、自分の実力を知る良い機会でもありました。

全国大会に向けて放課後や土日、そして帰宅してからも練習に励みました。その中で、くじけそうになったり、諦めたいと思うことも少なからずありました。部活動の大会も控えていたので、その両立がなかなか上手くできませんでした。そんな時、周りの方々の励ましの言葉が私の支えになりました。

大会本番では、問題が今までの出題傾向とは違っていたので、少し焦ってしまいましたが、練習してきたことを信じて競技することができました。結果発表で自分の名前が呼ばれた時はとても驚きました。それと一緒に、自分が入賞できた嬉しさもありました。今回の大会をとおして、来年の大会や将来に向けて何か生かすことを身に付けたように思います。

このように大会で結果を残すことができたのは、指導してくださった松浦先生、柳原先生、応援してくださった先生方、友人などがいたからだと思います。改めて周りの方々へのありがたさを感じ、これからも感謝の気持ちを忘れないで、来年の簿記選抜に取り組み、今回の大会よりも成長できるよう頑張っていきます。

## 「全国簿記コンクール全国大会に参加して」

簿記選抜顧問 松浦 昭彦

令和元年度第35回全国高等学校簿記コンクールは、令和元年7月21日（日）大阪学院大学で開催されました。今年度も簿記コンクールで頂点を目指す各県予選を勝ち抜いた団体95校395名、個人90名、計485名の精銳が集い、競技が行われました。本県からは団体の部で県大会優勝校の盛岡商業高等学校と準優勝の本校の2校、個人の部で盛岡市立高校1名、宮古商業高等学校1名の2名が出場しました。

この全国大会に出場した水沢商業高校選手は、選抜した生徒で部と掛け持ちです。簿記選抜生徒は3年2名、2年2名で構成され、1月から練習に打ち込んできました。当初8名からスタートした選抜チームでしたが、部と掛け持ちしながら練習することの難しさと、練習の厳しさから何名かの生徒が途中でリタイアしました。簿記コンクールの歴史は古く今回で35回を迎えます。県大会では、第1回から第19回までは盛岡商業高校の独壇場でした。水沢商業高校は平成16年第20回に初優勝してから五連覇は果たしましたが、それ以降30回まで入賞から遠ざかっています。31回、32回と連覇は果たしましたが昨年度は団体準優勝という結果に終わりました。今年度の県大会も団体準優勝で、個人では2位に2年佐々木慧蓮さん、3位に3年小野寺茉奈さん、6位に3年須藤渚さんが入賞しました。盛岡商業に5点差という僅差で負け、悔しさの残る県大会でしたが、悔しさをバネに全国大会に臨みました。過去の全国大会での入賞へのプロセスは、先輩の練習方法を取り入れての結果です。今年度もその練習方法を継続し、全国大会に臨ましたが、団体は22位と入賞まであと1歩のところでした。個人で2年佐々木慧蓮さんが佳良に2年ぶりに入賞しました。団体、個人ともに好成績を残してくれました。

今年度の簿記コンクール全国大会は岐阜県立岐阜商業高校が制しましたが、水沢商業高校の生徒の力量は昨年同様着実に伸びています。選抜生徒は根性があり、常に可能性へ挑戦し続けるための厳しい練習に耐える不屈の精神力もあります。今年度は自分たちの習得した高度な会計知識を活用し、県大会において個人で輝かしい成績を収めました。水沢商業高校として「簿記の水商」の復活を果たす、新たな伝統を築いてくれました。これは選手の日々の努力の成果であることはもちろんですが、保護者や多くの方々からのご支援の賜です。来年度も県大会優勝、さらには全国大会入賞を目指し頑張っていきます。

## 全国高等学校情報処理競技大会

### 全国大会に出場して

3年C組 横田 佳祐

私は7月28日に広島県立大学で行われた全国情報処理競技大会に出場してきました。結果は、281人中197位という結果でした。目標は200位以内に入ることだったので、目標は達成したことになります。

私は2年生から情報処理競技大会に関わってきました。2年生の時は、県大会で入賞できずに終わり、また、思っていたよりも順位が低く、落ち込んでしまいましたが、来年こそやってやろうと決心しました。

今年の6月8日の宮古商業高校での大会では個人で第7位、佳良賞に入り、全国大会に出場することになりました。今まで全国大会に出場という経験がなかったので、出場が決まった時は、とても嬉しく思いました。

前期中間考査が終わってからの放課後に全国大会に向けての勉強を始めました。全国大会の問題は、県大会の問題よりも難しく、配点も異なるところがあるので、点数がなかなか伸びませんでした。先生に質問して解ける問題も増えていき、不安も小さくなっていました。

結果は、I部では平均ぐらいの点数を取り、II部では平均より下でした。あまり良い成績とは言えませんでしたが、全国大会に出場できることと、この大会に出場するために、顧問の先生、親、応援してくれた回りの方の支援がとても嬉しく思いました。ありがとうございました。



## 「全国高等学校情報処理競技大会に参加して」

情報処理選抜顧問 吉田 剛

令和元年7月23日（日）、第31回全国高等学校情報処理競技会が広島県の広島市立大学で開催され、3年C組の横田佳祐が個人の部に出場しました。全国大会に先立ち、6月10日に行われた岩手県大会では、本校は団体の部で準優勝となり、全国大会への出場権は逃したものの、個人の部では横田佳祐が7位に入り、2年ぶりに全国大会への出場権を得ました。

全国大会当日は、晴天に恵まれる中での大会となりました。大会は、各県の予選を通過した高校生281名が参加し、団体、個人の順位が競われました。競技はI部が関連用語とデータベース（40分）、II部が表計算とアルゴリズム（40分）の合計80分、200点満点です。横田はI部得意としますが、II部に若干の不安を持っており、その出来が順位を左右すると予想されました。競技終了後、本人に内容を確認すると、やはりII部の難易度が高かったとの感想でした。閉会式で今回の問題に関する平均点が公表され、I部54.4点（最高得点91点）、II部34.4点（最高得点86点）ということで、参加した生徒たちもII部に苦戦した様子が覗えます。特に全国大会のII部の配点は、各問ごとのセット配点であり、設問ごとに得点が加算される県大会との違いは大きいです。「II部を制するものが競技大会を制する」と言われており、知識量と読解力、また、40分という短い時間で大問4つを解いたうえで、各問ごとを完答しなければ得点が伸びないII部をいかに解くかを考えいかなければ全国大会で戦うことは難しいと感じました。

個人での結果は198位でありましたが、I部では40位に入賞した生徒よりも得点が高く、大いに健闘したと思われます。部活動として取り組んでいる学校もあり、圧倒的に対策する時間に差がある中で、このような結果を残せたことは立派でした。放課後も遅くまで残って問題に取り組んだ選手の日々の努力の成果であることはもちろんですが、保護者や多くの方々に支えられて全国大会まで活動することができました。来年度は団体でも全国大会へ出場できるように頑張らせていくたいと思います。

# 第69回全国高等学校PTA連合会 ～京都大会～



## 「Kyoから！未来を拓く」

8月22日・23日の2日間、「第69回全国高等学校PTA連合会～京都大会～」が開催され、全国から約1万人が京都に集結いたしました。さすがは国際都市京都。平安神宮に隣接する2会場ですべての人数が収容されました。夏の京都は初めてで、酷暑を覚悟しての京都入りでした。

今大会は、メインテーマを「Kyoから！未来を拓く」、サブテーマは「～受け継ぎ、創る新たなストーリー～」と題して開催されました。メインテーマの「Kyoから」には、「京都の地から」、「大会の今日から」、「共に協力して」、「(家庭)教育から」などの思いが込められ、「未来を拓く」は、これまで蓄えてきた財産を元に、子どもたちの未来や今後のPTA活動を創り上げるきっかけとなる大会になればなど願い、テーマとして設定したそうです。

分科会は全部で6つあり、それぞれに特色のある講師をお迎えしての講演でした。私は、佛教大学の原清治氏が講師を務める第4分科会に出席しました。前半は、先生の基調講演を拝聴。テーマは「高校生の人間関係について考える」「現代の高校生は、親や教師だけでなく友だちにさえ本音を言わない」という、にわかには信じがたい話から始まりました。さらに、最近の学生は食堂での相席を嫌がるため、あえて食堂の中に仕切りを作り、ひとりで座れる席（ぼっち席）というのを作り、そこを利用することで個の空間を守ることができるのだそうです。マスクも風邪や予防ではなく、自分を主張するための

## PTA会長 井上建志

ひとつのツールになっており、また、マスクすることで相手に対して向き合うことができるそうです。時代の流れを感じました。講演の内容はガチガチな難しい話だと予想していましたが、会場は笑いに包まれ、時間が経つのを忘れるくらい話に引き込まれました。後半は、原先生をコーディネーターとして、前年度まで高校生であった若者5人ほどをパネリストに招き、「卒業したからこそ言える」、「親にこんなことをしてほしかった」、「先生にこんなことをしてほしかった」といった本音を聞き出していました。千人以上いた会場でしたが、パネラーは臆することなく自分の意見をはっきりと述べていました。会場の一般席には恩師が仕込まれており、パネラーが涙する場面もあり、会場全体が一つになって大変な盛り上がりをみせました。それを導き出す原先生の人間力の凄さを感じました。

2日目は、「世界のベストCEO30人」に選ばれた、日本電産株式会社代表取締役会長の永守重信氏の講演を拝聴いたしました。メイン会場から私のいる分科会場に中継しましたが、成功者特有のみなぎるパワーが溢れていて、そこに講師の先生がいるかのような迫力ある話でした。

最後になりますが、今回、貴重な経験を積ませていただきありがとうございました。

この経験を生かして 次代の子どもたちとの触れ合い方、個性を理解しながら、一緒に未来をつくっていくことの大切さを考えていきたいと思います。

## 東北地区高等学校PTA連合会山形大会に参加して

PTA副会長 小野寺 道

令和元年7月4日、5日の2日間、山形市スポーツセンターで行われた大会に参加してきました。開会行事は山形県民の歌「最上川」の生徒の独唱から始まり、山形県知事の祝辞や表彰（平成30年度広報誌コンクールなど）があり、そして研究協議に入りました。

「子どもたちの自立を支え、家族・学校・地域が一体となった地域創生をめざすPTA活動」をテーマに、各県のPTA代表の研究発表がありました。ある学校では、PTA委員が就職希望者に対して模擬面接をして、「一般企業や公務に関わる仕事をしている保護者からの面接指導は大変実践的で、先生方とは違った視点で刺激的」ということでした。自分の夢の実現に向けて真剣に取り組み努力している生徒たちの姿に、頼もしいものを感じると同時に、担当した生徒の合否がわが子のことのように気になる様子が見られたということでした。また、就職試験の合格率も上がり貢献度が高まっているそうです。

多くの高校の課題として、社会の変化や共働き家庭の増加、保護者の多忙化によりPTA総会を始めとした行事への参加率が低下傾向にあり、その対応策として行事を土日にしたり、文化部のコンサートと抱き合わせにしたりなどの工夫をしているそうです。

研修会をとおして、子どもたちが社会人になった時に、地域社会にスムーズにとけ込めるように、学校・家庭・地域で何ができるかを考える良い機会になりました。



## 第19回母親会員交流会

母親委員会副委員長 高橋奈苗

『子どもの可能性を引き出すコーチングにおけるあり方・関わり方』について、ビジネスコーチや研修講師として活躍している平野順子さんから、「大事なのは能力があるかどうかではなく、何をしたいかが重要であり、その答えは自分自身の中にある。そのため親は子の思いや考えを聞き、まずは認めてあげることが大切。子どもは認めてもらえたと感じることで、自己肯定感を持ち、行動に移せるようになる」とお話をいただきました。

次に、遠野高校と沼宮内高校のPTA活動についての発表では、親父の会によるウサギ狩りや卒業式で紅白餅を配るなど、それぞれ特色ある活動を行っていました。

その後のグループ討議では、役員の選出方法について質問が上がり、どちらの高校でも苦慮していることがうかがえました。

今回、初めて参加させていただきましたが、沢山の方と意見交換できることで、親として、PTA役員として、今後の関わり方を考える良い機会となりました。

母親委員会副委員長 及川みどり

2年目にして初めて母親会員交流会に参加しました。他校のPTAの方々と話し合ったり、学校行事の情報交換をしたりすることはとても新鮮で、どの母親も同じようなことで悩んでいるんだなあと感じました。

講演会のティーチングとコーチングでは、コーチングの方が大事なのに、私はまるでできていなきことに気が付きました。今後は子育て、日常生活、職場において生かしていきたいと思っています。とても充実した一日でした。参加させていただき、ありがとうございました。



# PTA会員交流会 ～山形方面～



文翔館



立石寺（通称・山寺）

## 楽しかったPTA会員交流会

進路対策委員会委員長 小野寺 満 枝

私はPTA会員交流会に3年間参加させていただきました。1年目は秋田県の角館、2年目は宮城県仙台市震災遺構荒浜小学校、うみの杜水族館、キリンビール工場へ。そして今回は山形県、山寺と文翔館へ。

初めは誰も知る人がいませんでしたが、回を重ねるごとに知り合いも増えて、次も行きたいと思えるほど楽しい行事でした。私は役職がなにもありませんでしたし、観光気分での参加だったので、本当に楽しく、また、先生方や他の親御さん方と交流ができるこの研修会は、ぜひ参加するべきだと思いました。

バスの中では往復ともに親たちのおしゃべりで盛り上がり、気持ちはまるで高校生になった感じでした。1年生・2年生の保護者の方は、来年はぜひ参加し、この楽しい時間を過ごして欲しいと思っています。3年間参加した小学生の息子から「来年も参加したい」と言われましたが、来年は参加できないと告げると、残念そうな顔をしていたので、息子にとってもとても楽しい時間だったに違いありません。

最後に、この企画をしていただいた委員会の皆様、教職員の皆様、ありがとうございました。来年多くのPTA会員の方の参加を願っております。

## 今年は山形へ

3年C組 保護者 伊藤 久美子

1年生の時から参加し、今年で3回目になりました。毎年楽しみにしていた行事です。

今年は山形県山寺へ行ってきました。山門から奥の院までの石段が1015段。この石段は一段一段登ることに欲望や汚れが消滅し、明るく正しい人間になれると言われるありがたい石段だそうですが、普段から運動不足な私にとって、一段一段かみしめながら登る余裕などなく、踊り場で休み休みしてどうにか登り切りました。途中でリタイヤする人もなく、全員が登り切った後の展望台から眺める景色は、それまでの疲れが全て吹き飛んでしまうほどの素晴らしい絶景でした。

そして昼食は山寺のふもとで、予定より大きな川魚の姿焼き、炊き込みご飯、牛肉入りの芋煮と山形の郷土料理をどれもおいしくいただきました。

昼食の後は山形県郷土館・文翔館へ行きました。旧山形県庁・県会議事堂で、大火災で焼失した建物を大正時代に復興したものだそうです。石造りの外壁、赤レンガ造り、時計塔のレッドカーペット、英國様式の建物はとても洒落ており、素敵でした。特に貴賓室の大きなシャンデリアと真っ白な漆喰のコントラストは見事でした。

今年の交流会も楽しい一日で、バスの中では話が弾み、笑いが絶えず、心もお腹も満腹で帰路につきました。私は今年で最後の参加になりましたが、来年はもっと沢山の保護者の方に参加して欲しいと思っています。楽しい思い出になること間違いなしです。

最後に、準備や同行していただいた先生方やご一緒した保護者の方々に感謝いたします。ありがとうございました。

## 2学年インターンシップの取組 (令和元年7月22日から24日)

### 目標に向って

2年A組 菊地 梨奈子

胆沢病院でのインターンシップでは、色々な体験から多くのことを学ぶことができた。

1日目は、胆沢病院についての説明を受けた。病院全体で611人の人が働いていることや、岩手県では2台しかないダヴィンチという機械が備わっていることを知った。最新技術を導入して良い医療を目指し、日々、地域の医療に貢献していることが分かった。リハビリテーション科の見学・体験では、実際に車いすに乗ったり、片手だけでする動作を行ったが、片手だけでは思うように動かすことができず、車いす利用者や手が不自由な方がどれだけ大変なのかを少しだけ知ることができた。また、患者さんの立場や思いを理解する大切さを学んだ。

2日目は、感染管理認定看護師や診療放射線技師といった職業を知り、これからは自分で色々なことを調べて視野を広げたいと思った。自分の中では、この科で働く人は女性が多いだろう、この科では男性が多いだろうと予想していたが、それぞれの科に女性も男性もいることわかり、自分が女性だからなれないと思うのではなく、自分は何をしたいのか、何に就きたいのかを一番に考えるべきだと感じ、職を選ぶうえで大事なことを再認識できた。

3日目は、白衣を着て看護体験を実際に行つた。患者さんの足を洗わせていただいた。温度調節や力の加え方に気を付けながら行なうことが難しかったが、患者さんから「気持ちが良い」と言っていただき、とても嬉しかった。この体験をして、患者さんの気持ちを理解し、どうやって患者さんに喜んでもらえるか、考えながら寄り添っていくことが重要であると学んだ。体力面や精神面での大変さについて看護師さんに直接伺う機会もあった。たとえ大変なことがあっても「チーム医療」で支え合い、患者さんの喜ぶ姿を見て乗り越えられるとおっしゃっていた。

今回の3日間のインターンシップをとおして、医療に関する知識を深めるとともに、働く上の喜びや大変さを知り、困難に直面した時にそれをどのように乗り越えていくのかを学ぶことができて、自分にとってとても良い経験になった。また、看護師である母の仕事を知る機会にもなり、母のような人になりたいと強く思うようになった。今後は、相手を思いやり、そして行動するなど、自分に足りない力を身に付けていき、将来は医療の仕事に就き、人から必要とされる人間になりたい。



## 復興支援学習 (令和元年9月18日)

### 「震災復興学習」に参加して

1年B組 菅原藍梨

私は震災復興学習に参加して、当時の様子や現在の状況について知ることができた。東日本大震災が起きてから約8年が経ったが、これまで被災地へ行ったことがあった。復興作業などで以前より建物が増えているが、今も復興作業は行われていた。8年が経ってもまだ完全に直すことができない程の津波の力は本当に恐ろしいものだと思った。

三陸鉄道ではガイドをしていただいた。海の前にある堤防はとても高かったが、それも津波は超えてしまうという。逃げるための時間をつくってくれると聞き、堤防の役割の意識が異なると感じ、これが津波を知る者と知らない者の違いなのだと知った。震災や津波に対する思い、意識などは私が想像できない程だと思う。これからも被災地の被害や状況を知った上で震災について考えていきたいと思った。

また、この学習で被災地の工夫が見られた。建物、特に公共施設はなるべく高いところに建てられていた。私達の乗った三陸鉄道も高いところに線路が造られていた。建物などが高いところへ建てられることは分かっていたが、線路もということにとても驚いた。他にもまだあると思うので知りたいと思った。

資料館では写真や映像、物などがたくさんあった。津波によって壊れたり汚れたりした物は被害の大きさや津波の強さを物語っているようだった。

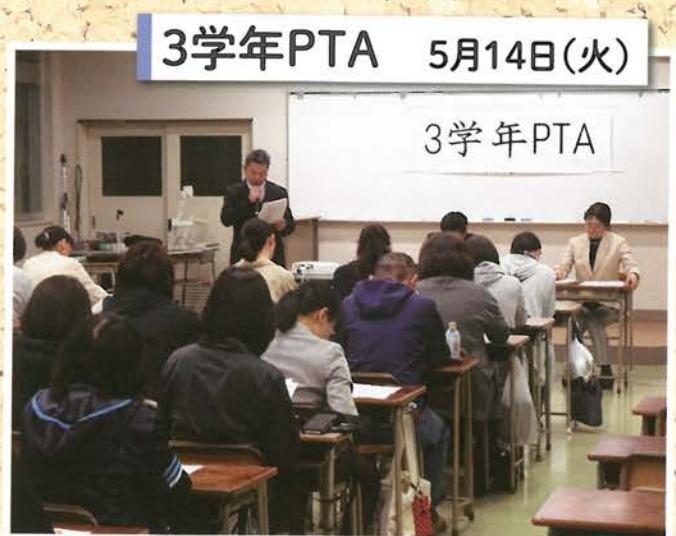
私はこの震災復興学習で本当にたくさんのことを見た。被災地の方々はバスや電車に乗っている時、手を振ってくれた。本当に優しく接してくださる方ばかりで一刻も早く復興が終わってほしいと思った。この震災を忘れずにいたい。また、募金など少しでも力になれるようなことがあれば積極的に参加していきたいと思った。震災について考え方を改めて学ぶことができて、本当に貴重な時間を過ごすことができた。



# 写真で見るPTA活動

入学式 4月6日(土)





# 水商生の健康課題

以前と比較してどう変わったでしょう

- ①毎日の朝食摂取率が減少
- ②スマートフォン1時間以上使用者は減少

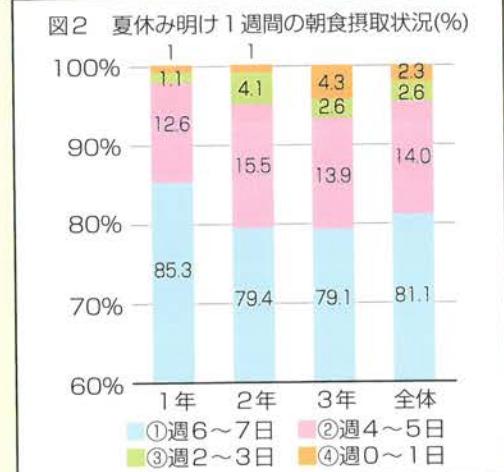
## 朝食

毎日摂る者が減り、週4~5日が増えました。

平成30年8月調査



令和元年8月調査



## スマートフォン等の使用時間

昨年度に比べて1時間以上使用者が減りました。

平成30年8月調査



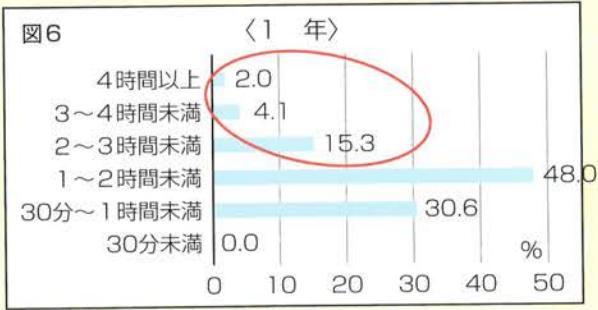
令和元年8月調査



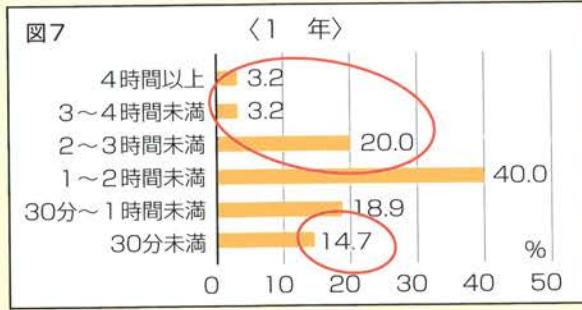
平成31年4月調査



令和元年5月調査



令和元年8月調査



今年度始めに1年生に調査した結果は図5のとおりです。

5月に眼に関する保健講話をを行い、その直後に行った調査結果が図6です。

そして、8月の調査結果が図7で、4月と比べて30分以上が増え、2時間以上が減りました。

# 生徒の活躍

※部名、大会名、日時、場所、結果の順

## 運動部

### ●硬式野球部

【第101回全国高等学校野球選手権大会岩手県大会】

令和元年7月14日(日)

岩手県営球場

2回戦 水商 1-14 一関学院



### ●ソフトボール部

【岩手県高等学校総合体育大会】

令和元年6月1日(土)~3日(月)

石鳥谷ふれあい運動公園

1回戦 水商・岩谷堂合同 7-3 盛二・盛南合同

2回戦 // 0-8 大東



### ●ソフトテニス部

【岩手県高等学校総合体育大会】

令和元年5月31日(金)~6月2日(日)

和賀川グリーンパークテニスコート

【男子】

団体 1回戦 水沢商業 1-2 大東

【女子】

団体 1回戦 水沢商業 3-0 宮水

2回戦 // 2-1 盛北

3回戦 // 0-2 盛岡誠桜

個人

1回戦 小原・小玉 1-4 釜石

芳賀・菊池 2-4 一関一

### ●陸上競技部

【岩手県高等学校総合体育大会陸上競技】

令和元年5月23日(土)~26日(火)

北上総合運動公園北上陸上競技場

佐藤祐介 200m 23.05 準決勝進出

110mH 14.95 第2位 東北大会出場

菊池優大 800m 2.02.91 準決勝進出

男子 4×100m 44.16 準決勝進出

4×400m 3.30.77 準決勝進出

及川奈々 100mH 17.25 準決勝進出

【全国高等学校総合体育大会陸上競技大会東北地区予選会】

令和元年6月17日(月)

佐藤祐介 110mH 14.56 第3位

インターハイ出場権獲得

【全国高等学校総合体育大会陸上競技大会】

令和元年8月8日(木)

タビック県総ひやごんスタジアム

佐藤祐介 110mH 15.42

### ●弓道部

【岩手県高等学校総合体育大会弓道競技】

令和元年5月24日(金)~26日(日)

岩手県営武道館弓道場

団体 準々決勝敗退 ベスト16

個人 佐藤 村上 準々決勝敗退

### ●バドミントン部

【岩手県高等学校総合体育大会】

令和元年5月30日(木)~6月2日(日)

一関市総合体育館

【男子】

団体 1回戦 水沢商業 0-3 盛大付属

【女子】

団体 1回戦 水沢商業 3-1 岩谷堂

2回戦 // 0-3 花北青雲

個人ダブルス

1回戦 佐々木美知・門脇安優 2-1 大東

2回戦 // 0-2 花北青雲



### ●卓球部

【岩手県高等学校総合体育大会】

令和元年5月24日(金)~26日(日)

奥州市総合体育館

【男子】

団体戦 1回戦 水沢商業 0-3 福岡工業

【女子】

団体戦 2回戦 水沢商業 2-3 千厩

個人戦シングルス

1回戦 伊藤綾音 3-1 盛農

2回戦 // 0-3 盛二

1回戦 佐々木萌子 3-0 花農

2回戦 // 3-1 盛市

3回戦 // 0-3 専北

個人戦ダブルス

1回戦 小野寺いすみ・江川紗由貴 3-2 千厩

2回戦 // 1-3 宮商

1回戦 伊藤綾音・千田綾香 3-1 久慈

2回戦 // 0-3 盛市

### ●バレーボール部

【岩手県高等学校総合体育大会】

令和元年5月24日(金)~27日(月)

花巻市総合体育館

1回戦 水沢商業 2-0 岩手女子

2回戦 水沢商業 1-2 伊保内

### ●バスケットボール部

【岩手県高等学校総合体育大会】

令和元年5月30日(木)~6月2日(日)

奥州市総合体育館

【男子】

2回戦 水沢商業 58-100 釜石

【女子】

2回戦 水沢商業 75-56 千厩

3回戦 水沢商業 67-97 一関一

# 文化部

## ●吹奏楽部

### 【全日本吹奏楽コンクール第57回岩手県大会】

令和元年8月3日(土)  
奥州市文化会館  
銀賞

## ●ワープロ部

### 【岩手県高等学校ワープロ競技大会】

令和元年5月25日(土)  
盛岡商業高等学校  
団体 優勝  
千葉ななみ 小澤由宇 千葉拓斗 4,834字  
個人 優勝 千葉ななみ 1,735字

【第57回東北六県高等学校ワープロ競技大会】  
令和元年7月6日(土)  
秋田県立大曲高等学校  
団体 第4位  
千葉ななみ  
小澤由宇  
千葉拓斗 4,786字  
個人 第2位  
千葉ななみ 1,823字



### 【第66回全国高等学校ワープロ競技大会】

令和元年8月7日(火)  
名古屋市中小企業振興会館  
ホール  
団体 第10位  
千葉ななみ 小澤由宇 千葉拓斗 5,096字  
個人 佳良賞 千葉ななみ 1,851字

# 選 抜

## ●商業研究選抜

テーマ：スポーツビジネスの可能性  
－行動経済学で拓く新たな未来  
発表生徒：千葉美佳、及川奈々、鈴木萌叶、菊地梨奈子

【第49回岩手県高等学校生徒商業研究発表大会】  
令和元年7月20日(土)  
胆江地区勤労者教育センター  
第1位 東北大会出場

【第23回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会】  
令和元年8月24日(土)  
山形テルサ アプローズ  
第2位 全国大会出場



## ●珠算電卓部

### 【岩手県高等学校珠算電卓競技大会】

令和元年6月1日(土)

盛岡商業高等学校

<珠算競技>

団体 優勝

佐々木慧蓮、小野寺純伶、千田祐太 1,200点

全国大会出場

個人 優勝 佐々木慧蓮

全国大会出場

第2位 千田祐太

//

第3位 小野寺純伶

//

### 【第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会】

令和元年8月1日(木)

仙台サンプラザホール

<珠算の部> 127校300名参加

団体 佐々木慧蓮、小野寺純伶、千田祐太

個人 佐々木慧蓮、小野寺純伶、千田祐太

末吉彩夏、鈴木南美

種目別 応用計算 佳良賞 佐々木慧蓮

910点



## ●簿記選抜

### 【第35回岩手県高等学校簿記コンクール】

令和元年6月15日(土)

花北青雲高等学校

団体 第2位

小野寺茉奈、須藤渚、佐々木慧蓮 全国大会出場

### 【第35回全国高等学校簿記コンクール】

令和元年7月21日(日)

関西学院大学

団体 第22位 (45校中)

小野寺茉奈、須藤渚、佐々木慧蓮

個人 佐々木慧蓮 佳良賞

## ●情報処理選抜

### 【第31回岩手県高等学校情報処理競技大会】

令和元年6月8日(土)

宮古商業高等学校

団体の部 第2位

個人の部 第7位 横田佳祐 全国大会出場

### 【全国高等学校情報処理競技大会】

令和元年7月28日(日)

広島市立大学

個人の部 横田佳祐

発行 岩手県立水沢商業高等学校PTA  
岩手県奥州市水沢字土器田1番地

印刷 あべ印刷株式会社

水商PTA 第93号

水沢商業高校ホームページ <http://www2.iwate-ed.jp/msc-h/index.html>